



「パラリンピックを応援しよう」

佐野中学校長 岡崎 宏一

新型コロナウイルス感染症で、季節への感受性がやや鈍っていませんか。いや、四季の変化を感じる心のゆとりがなくなっていたのかもしれませんが。季節は巡る・・・そんな当たり前のことさえ忘れそうになっていました。感染拡大への不安にとらわれていたのでしょうか。きっと多くの方々が当たり前の日常をまだ取り戻せていないのではないでしょうか。

周りの社会はそんな感染症に関係なく、日差しは暖かくなりはじめ、花々は美しく咲き誇る。季節は「大自然の摂理」にしたがって着実に巡ってきました。当たり前のことが当たり前に進む。本当に心が安らぎます。

いよいよオリンピックが7月から、そして8月24日からはパラリンピックが開催されます。今回はスポーツの祭典について触れていきたいと思います。

1896年、今から124年も前にアテネで始まった第1回オリンピックと比べると、パラリンピックの歴史は始まったばかりですが、今回の東京大会では大いに注目を集めています。

ところで、パラリンピックの「パラ」の意味をご存知でしょうか？下半身麻痺を指す「パラプレジア」の「パラ」が語源で、1948年、第二次世界対戦で負傷した兵士たちがオリンピックに合わせて競技会を開いたことが始まりのようです。当時、身体障がい者は世間から見放され、忘れ去られ、重度の鬱状態が常でした。患者たちを人間らしく扱い、彼らに耳を傾け、社会の片隅ではなく社会の真中に居場所を与え、スポーツを通して肉体的にも精神的にも救いたいという強い目的がそこにはありました。

そして、さらに「パラ」の意味は進化して、1985年これまでの対麻痺者のオリンピックという意味から、その他の身体障がい者を含めた国際大会となり、「パラレル」の「パラ」、「並行した」「もう一つの」「対等の」オリンピックという意味が付け加わりました。

今回の東京パラリンピックは、人間のもつ可能性、信念、勇気、希望を表現してくれるはずで。そんなスポーツの祭典、パラリンピックを見ること、応援することで、私たち人間の素晴らしさを再確認して欲しいと思います。

そして、5月20日（木）から今年度の市総合体育大会が始まりました。感染予防のために練習試合や大会も制限されている中ですが、これまでの練習の成果を発揮し、心に残る大会にして欲しいと思います。

部活動の正式入部（1学年）

4月13日（火）からの体験入部を経て、5月6日（木）から部活動に正式に入部をしました。

運動部は、総体や新人戦を大きな目標にしながら、技能や体力の向上に努めています。

文化部は、コンクールや作品展などを目標としながら、毎日の活動に取り組んでいます。

5月14日（金）に総体壮行会と部活動保護者会が行われました。お忙しい中、ご参加くださいましてありがとうございました。



佐野中学校玄関前の『野ばら』が満開になりました。

交通安全教室（1学年）



1学年を対象に、主に自転車の乗り方を中心に交通安全教室を行いました。交通量が多い国道6号や踏切などが通学区にあり、また小学生や高校生との通学時間も重なることから、交通事故が起こる可能性が多い地域です。周囲の確認や危険の予測、交通マナーやルールを守って安全な登下校に心掛けていきます。毎日、登下校の安全指導も全職員で取り組んでいます。

創立記念日 5月25日(火)

昭和24年5月25日に新校舎が落成し、創立記念日と決定されました。今年で75周年を迎え、地域と共に、今後ますます発展すべく、生徒と共に教職員一同全力で取り組みます。



活発な生徒会活動の広報活動 『生徒会だより』

9名（3年生5名，2年生4名）の生徒会役員が『楽しい』をスローガンに自治活動を進めています。4月20日(火)には、生徒会が中心となって新入生歓迎会が行われました。



文部科学省からのお知らせ

コロナ禍において児童生徒等の自殺者数が大きく増加していること、また、長期休業明けに児童生徒等の自殺者数が増加する傾向にあり、不安や悩みを抱える子どもたちが増えることも考えられます。

保護者や学校関係者、地域のみなさまにおかれましては、子どもたちと向き合い、話を聞く・話し合いをする時間を積極的に取っていただくようお願いいたします。

「誰も自殺に追い込まれることのない社会」を実現するためには、国民一人ひとりが身近な人の様子を気遣い、支えていくことが不可欠です。文部科学省としても、児童生徒等の命を守り通せるよう、引き続き、自殺予防の取組に全力を尽くします。（令和3年5月 文部科学大臣 萩生田 光一）